

6/10 木曜

# “入管制度崩れつつある”

難民申請者の送還を

可能にする改悪入管法の成立後、入管施設で死したウイシュマ・サンタマリさん遺族と参院本会議傍聴指宿昭一弁護士語る

審議を見てきましたが、与党議員も後ろめたさでした。審議中も下を向いていたし、知り合の与党議員は採決後に私と話を合させてくれませんでした。「(U)のやり方はまあかかった」と思っていました。反対した市民たちは、がっかりしたりあきらめたりしてほしくないです。

今日の強行採決は「終わりの始まり」だと感ります。反対した市民たちは、がっかりしたりあきらめたりしてほしくないです。

声を上げる市民

一番大きなのは市民が

声を上げ始めたことです。2年前の改悪反対運動は、広がらが始めました。今回は「おかしい」と思った人が全国で声を上げ、職場の最寄り駅前で毎日スタンディングするなどの動きが増えました。2年前より格段に大きな広がりができると思います。市民は伝えれば分かってくれます。この力が今後、人権を守るために、何をやるべき手

を絶対に離さないでほしい。1ヵ月に1度、3カ月に1度でもいいからスタンディングなどの行動を続けてほしい。

無視の入管行政をやめていく大変な推進力になります。

## 命失う人の存在

市民たちは、送還された命を失ったり家族がバラバラにされたりする人の存在を知りました。その人たちとつないだ手

## つないだ手 絶対離さずに



ウイシュマさんの遺族と共に取材に応じる指宿昭一弁護士（右）＝9日、国会前

有権者の審判を

私たちも被験者や弁護士は審議で明ひかになった問題点をさらに追及していくきます。協力し合っていきます。協力し合っていきます。在留資格とも連携します。在留資格のない未成年者に在留特別許可を与えると、就職健太郎相が書いました。在留特別許可を得られるべき人が一刻も早く得られるよう運動を始めます。

1年後の改悪法施行前に野党の改正案を成立させぬれば、取り組むべきです。改悪法が施行されても、3回以上の難民申請者の送還や、送還を拒否した人への刑事罰を実施させない取り組みも必要です。

改悪法成立のため重要な動きをした議員は有権者の審判を受けるべきです。衆院解散時に知つても知つよかったです。法案を反対した議員たちは当選してほしこので心機付いたのです。